

## 日韓目指すべき姿

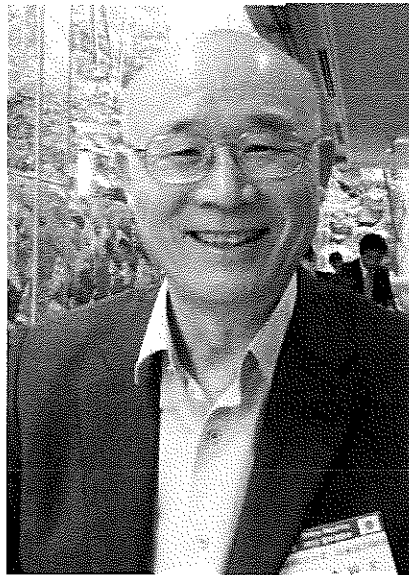
両国間の貿易が1000億ドルを超え、人の往来も年間500万人前後となり、かつてないほど密接と言われる日韓関係。日韓産業技術フォーラム・商談会で来日した韓日経済協会（ソウル市）の李鍾允副会長に、日韓関係の目指すべき姿を聞いた。

「かねて『東アジア経済共同体』の必要性を訴えています。」

「今日までの東アジアは、米国を市場として米国中心に発展してきた。しかし金融危機などによりこのモデルを維持しにくくなった。今後は新し

### 韓日経済協会副会長

## 李 鍾允氏に聞く



いモデルを作らねばならない。今でこそ危機に陥っているが、欧州連合（EU）の経済統合は高く評価している。同様のモデルを東アジアでも作

べきだ」

「なかでも、日韓関係を重視するのはなぜですか。今でこそ危機に陥っているが、欧州連合（EU）の経済統合は高く評価している。同様のモデルを東アジアでも作

リ・チヨンウン 69年ソウル大学校商科大学経済学科卒。一橋大学で経済学博士号取得。韓国外国語大学校世界経営大学院長などを経て11年から現職。釜山市出身。67歳。

「日韓企業間の関係になることが必要で、商談会、ビジネスマッチングによる産業分業はその第一歩となる。日韓は経済以外の問題で足を引っ張られることも多いが、経済面でウイン・ウインの関係構築し、全体の利益を考えて協力すべきだ」

「さらに連携を深める

## 東アジアの先頭に

## 経済統合へ向け協力

ために必要なことは。

「韓国企業が品質でも価格でも競争力を持つことだ。日本の先端分野以外の技術者を韓国に派遣し、技術レベルを合わせること」

「日韓企業の商談では、韓国企業が値段面の要求に応えられるかが一つのポイントとなる。た

だし、韓国企業は他の日本企業よりも30%ほど安くしなければならぬ。質、コスト面でかなわないなら仕方がないが、『身内びいき』では、市場メカニズムが正常に働いているとは言えず、障害の一つとなる。適当なところで取引するのが良い」

### 真のパートナーへ相互理解力ギ

### 記者の目

両国が相互依存を高めているとはいえず、日本の中小企業の間では相互理解が欠かれない。

感じる向きが強いのではない。歴史認識問題など心理的な溝も深く、一つの経済圏を構築しようと呼びかける経済界との温度差は大きく、真のパートナーとなるためには一層の相互理解が欠かせない。

（森崎まき）